

日本看護歴史学会 会報

日本看護歴史学会
第27号
1997年5月31日

「再び京都にて、看護歴史を熱く語り合う時を…」

岡山 寧子

昨夏、記念すべき第一〇回大会を山形の地で開催し、早くも一年近くが経とうとしています。そして学会の新たな一歩でもある第一一回大会は再び暑い京都で開催いたします。過去三回の京都大会を振り返りますと、第一回の「設立総会」では、新鮮な息吹きの中学会が「広く看護に関する歴史を考究すること」を目的として設立したことを確認しました。第三回大会では「GHQの看護教育改革」、第九回は「戦後五〇年の看護改革の行方」と戦後急速に進歩した看護の足跡を、当時、直接看護教育や看護改革に当たられた方々により貴重な証言をいただき、いくつかの新事実を確認し、今後の看護の進むべき方向への大きな示唆を

得ることができました。

さて、今回の大会は、「保健婦助産婦看護婦法（以下、保助看護法）五〇年の証言」というテーマで、法律制定に直接関わった方々から直接証言していただく予定です。

昨年、保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則の改訂があり、今年四月より施行されました。この背景には看護教育の大学化への急激な進展があります。一九九七年には看護系大学数は五三校、短期大学は六〇校余りとなり、大学院も急増している現状です。一方で、厚生省は准看護婦問題検討委員会の報告を受けて、現行の准看護婦養成課程の内容を看護婦養成課程の内容に達するまで改善し、二一世紀の初頭の早い段階を目前に、

看護婦養成制度の統合に努める方向性をめざしています。戦後五〇年、これまで遅々としていた看護職の質的發展の歩みを、今看護職自身が主体となって堅実に力いっぱい早めています。このような急激な変化を誰が予測したのでしょうか。保助看護法制定に当たり、現在のこのような「未来」を予測していたのでしょうか。そうでなければどのような方向を見据

えていたのでしょうか。今大会では、保助看護法を歴史的視点で再度振り返り、看護のこれからを熱く語り合うではありませんか。会場となる京大会館は、京都大学にほど近い鴨川のほとりに位置し、夏の五山の送り火で有名な大文字山をはじめ、東山を望む閑静な地にあります。交通機関も便利です。多くの方々の参加を期待しております。



京大会館 〒606 京都市左京区吉田河原町15-9
Tel (075) 751-8311(代)

- 京都駅より市バスA2のりば (206)
 - 阪急河原町駅下車 高島屋前 東行きバス停
 - 四条京阪より (南座向い) (201) (31)
 - 三条京阪中央口より 京都バス 13・14番のりば 出町柳経由系統 荒神橋下車
 - 京阪電車鴨東丸太町駅下車徒歩約10分
- 東一条下車

第一二回 日本看護歴史学会開催案内

メインテーマ 「保健婦助産婦看護婦法五〇年の証言」

会報第二六号でご案内しました

とおりに、本年は「保健婦助産婦看護婦法」制定五〇年目、半世紀がすぎました。日本の社会を支える日本国憲法も施行五〇年を前に、その真価が問われる時代です。

今大会では「保健婦助産婦看護婦法」制定に直接関与された方々をお招きし、当時の状況を直接証言していただく事で、書籍等では得られぬ法制定時の看護の基本姿勢がうかがえるのではないかと思います。二日間にあわたって歴史的に貴重な証言に對峙できるよい機会です。より多くの方々への参加をお待ちしています。

◆第一日目

午後一二時半 受付開始
午後一時 開会

午後一時～五時 講演会

『保健婦助産婦看護婦法

五〇年の証言』

コーディネーター

亀山美知子氏

武藤 美知氏

証言者の方々

金子 光氏

榊 秀子氏

林 みどり氏

関連報告

別所智恵子氏

午後五時～五時半 会員総会

午後五時半 閉会

◆第二日目

午前九時 開会
午前九時～十一時半

会員による研究発表

座長 草刈淳子氏

分科会（研究発表者数により使用時間に若干変更あり）

担当 高田 節子氏

山崎 雅代氏

午前十一時半～一時

昼食会を兼ねた懇親会

午後一時～三時半 放談会

テーマ

『保健婦助産婦看護婦法

制定当時を振り返って』

コーディネーター

五十嵐 節氏

別所智恵子氏

放談会への導入（三〇分）

大石杉乃氏による

「GHQに関する研究報告」

金子 光氏、榊 秀子氏

林みどり氏による放談

（九〇分）

フロアー質疑応答（三〇分）

午後四時 閉会

※総合同司会 高橋みや子氏

〒602 京都市上京区清和院口

寺町東入ル

京都府立医科大学医療

技術短期大学部

日本看護歴史学会事務局宛

◆大会参加費

会員 三千元

非会員 四千元

学生（院生を含む） 二千元

第二日目の昼食を兼ねた

懇親会費 千五百円

◆参加申込み方法

同封の振込み用紙に、参加者名（複数連名可）、参加費および懇親会参加の有無を明記し、合計額を来る七月一〇日までに振込みをして下さい。

◆大会参加用

郵便振替口座番号

〇〇九〇〇―二一四二九七九

日本看護歴史学会

◆研究発表の申込みについて

研究発表を希望する方は、「研究発表希望」と朱書きで、テーマと内容の概説を付し、六月末日必着で左記へ郵送して下さい。

